

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.100 2002.11.11

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15 (学) 産業能率大学内 日本教育情報学会 運営本部事務局
Tel:03-3704-9168 Fax:03-3704-9246 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei>
(学協会情報発行サービスのドメイン名移行に伴い、URLが変更になっております。「nacsis.」「nii.」)

「教育の情報化」についての研究会開催のお知らせ

この度、会員の皆さまに最近のトピックについてご紹介しながら、主体的な参加をモットーとした参加者全員で創る研究会を開催することになりました。会員同士の親睦をはかるとともに、一般の方々の参加も歓迎し、参加者全員の親睦をはかります。皆さまお誘いあわせの上、奮ってご参加ください。

日時：2003年1月11日(土) 13:00~18:30 (引き続き、懇親会を20時まで開催)

会場：国立教育政策研究所 目黒庁舎

所在地〒153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22 電話:Tel:03-5721-5092(堀口研究室)

交通： 目黒駅(JR山手線・営団地下鉄南北線・都営地下鉄三田線・東急目黒線)

から、東急バス「大岡山小学校」行等で約7分、「目黒消防署」下車 徒歩4分

東京駅丸の内南口から都バス・東急バス「等々力」行約50分「目黒消防署」下車

国立教育政策研究所サイト (<http://www.nier.go.jp>) 地図をご参照ください。

進め方：研究会はラウンドテーブルディスカッションで行います。ラウンドテーブルディスカッションは、始めも終わりも上も下も経験の多い少ないも問わないテーブルに参加者全員が着いて、お互いを尊敬しつつ対等の立場で意見を言い合う場です。

1テーブルのメンバーは15名から最高30名までを目安にし、当日の参加者数に応じてテーブル数を増減し議論を進めます。1つの議論は、話題提供15分、討論60分、まとめ5

分の80分で1セッションとします。今回は3つのセッションを展開します。テーブルごとに進行役と記録担当者、それに話題提供者を置きます。1テーブルのメンバーは3セッションとも同じですが、話題提供者はセッションごとにテーブルを移動します。

時間	内容 (座長)	Aテーブル (堀口秀嗣)	Bテーブル (井口磯夫)	Cテーブル (木下昭一)
13:00-13:15	全体会	研究会開催にあたって		
13:15-13:00	移動	各テーブル(教室)に移動		
13:30-14:50	第1セッション	テーマ(1)	テーマ(2)	テーマ(3)
15:00-16:20	第2セッション	テーマ(2)	テーマ(3)	テーマ(1)
16:30-17:50	第3セッション	テーマ(3)	テーマ(1)	テーマ(2)
18:00-18:30	全体会	まとめ(各テーブル発表)		
18:30-19:30	懇親会	懇親会		

座長：堀口秀嗣(国立教育政策研究所教育研究情報センター総括研究官)
井口磯夫(十文字学園女子大学社会情報学部教授)
木下昭一(聖徳大学人文学部教授)

テーマ

(1) 近未来教室環境とコンテンツ 話題提供者 西田光昭(柏市立土南小学校)

2005年を目標年度として、e-Japan戦略が展開され、普通教室に2台のネットワークに接続されたパソコンが新たに配置される予定です。いわゆる授業が行われる場で必要に応じてインターネット等が利用できる学習環境が構築されます。

ただ、機器だけでなく、経験の浅い先生でも呼び出して使える授業用コンテンツが大量に必要になります。その開発が省庁、研究機関、大学、教育センター、出版社、教材メーカー等で進められています。教育情報ナショナルセンターが2005年完成を目指して提供システム(<http://www.nicer.go.jp>)をリニューアルしました。

これらのことについて、具体的に西田氏から話をしてもらい、それをもとに方向性や有効性や問題について様々な角度から議論を進めます。

(2) 体系的な情報教育の実施と評価 話題提供者 加藤直樹(岐阜大学カリキュラム開発研究センター)

今年から始まった新しい学習指導要領では、「体系的な情報教育の実施」が柱の一つになっています。しかし、個人差も大きく、経験豊かな小学校高学年の児童の中には、一般的な大学生よりも情報活用能力に長けているように感じられることもあります。まだ手探り状態にある初等中等教育での情報教育ですが、日々の情報教育を行っていくために、学年間のつながり、校種間のつながりをどう考えればよいかを議論します。また、評価についても手探りの状況で、重要なテーマになっています。どのような情報活用能力がついたのか、それはどうやって計れるのかなど、具体的に話し合います。

(3) 情報の共有化と学習ツール 話題提供者 貞本 勉(光村図書出版)

総合的な学習を始めとして、学習活動がグループで行われることが多くなってきました。グループ活動が効率よく進められるためには、分担して調べた情報がすぐにグループ活動に活かされたり、個々の作品を合わせてグループ作品に仕上げる活動や、それをを用いたプレゼンター

ションが増えてきました。同様に、教師の校務分掌や授業準備の活動も情報を共有化できれば短時間で済ませられたり、情報の蓄積が有効になったりします。そのためにはセキュリティに関する多様な機能も必要になります。そのようなことを実現できるデジタルポートフォリオや学校用グループウェアなどがフリーウェアで登場してきました。今回はそれが具体的にどのような機能を持ったもので、どのように使えるかを紹介してもらいながら、可能性や機能を議論します。

世話人：堀口秀嗣，木下昭一，井口磯夫

参加費：1,000円(資料代) 懇親会参加費 2,000円

参加申込方法

下記参加申込書に必要事項をご記入の上、日本教育情報学会運営本部事務局「研究会」に送付下さい。送付方法は、郵送，FAX，または必要事項をご記入になり，メールでお送りいただいても結構です。(様式は問いません)

参加費・懇親会費は、当日会場でお支払いください。

参加申込締切 2002年12月20日(金) 必着

各テーブルのメンバー構成の関係がありますので、申込み後、万一、欠席される場合は、前日までにお知らせください。また、締切日以降のお申込みは、席に余裕がある場合は受けつけることがありますので、お問合せください。

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15 (学)産業能率大学内

日本教育情報学会 「研究会」Tel:03-3704-9168 Fax:03-3704-9246

メールによる送付：荒井元明 (ARAI_Motoaki@hj.sanno.ac.jp)

.....キ リ ト リ 線.....
2002年 月 日

日本教育情報学会「教育の情報化」についての研究会参加申込書

「教育の情報化」についての研究会に参加します

研 究 会 (参加費 1,000 円)

懇 親 会 (参加費 2,000 円) (参加費は当日会場でお支払いください)

氏 名		会員番号	
住 所 (勤・自)	〒		
電 話		F A X	
E-mail			

***** 第18回 定時総会報告 *****

8月31日(土)13:05から山口大学メディア教育棟SCS教室において、日本教育情報学会第18回定時総会が開催されました。

正会員500名のうち79名の出席があり(委任状による出席を含む)、定款27条により総会は成立し、木田宏会長を議長として総会を開会しました。

提案された3議案 第1号議案 2001年度事業報告及び収支決算の件

第2号議案 2002年度事業計画及び予算案の件

第3号議案 名誉会員承認の件

は、審議の結果、原案通り承認されました。

(議案内容はNewsletter NO.99をご参照ください)

また、当日行われた理事会において、評議員の追加推薦があったことが報告されました。

(P7参照)

なお、開会に先立ち、福田隆真 大会委員長(山口大学教育実践総合センター長)、年会共催者の情報教養研究会 泉廣治会長(兵庫県教育委員会)からごあいさつをいただきました。

また、総会終了後、日本教育情報学会賞受賞者の表彰式を行いました。(P6参照)

平成15年度科学研究費補助金(科学研究費,研究成果公開促進費)公募について(お知らせ)

既にご存知かとも思いますが、参考のためにご案内いたします。

提出期間:2002年11月18日(月)~21日(木)

詳しくは、文部科学省及び日本学術振興会のホームページをご覧ください。

文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/index.htm

日本学術振興会 <http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

「教育の情報化」についての研究会
参加申込書をFAXでお送りの場合は
03-3704-9246にお送りください

日本教育情報学会第18回年会は、情報教養研究会の共催、山口県教育委員会、山口市教育委員会の後援により、8月31日(土)9月1日(日)の両日、山口大学吉田キャンパスを会場に開催されました。初日は、台風接近に伴う強風のため、交通に影響の出た方もいらっしゃいましたが、約180名の方が参加され、盛会のうちに行うことができました。

2002年は、教育界においても新教育課程の実施にともなう学校週5日制と総合的な学習の時間の本格的導入という、新しい教育の時代への転換の年でした。このような節目の年に開かれた第18回年会は「これからの教師評価と教師の役割」という時機をえたテーマによるパネルディスカッションが行われ、96件を数える研究発表は、これからの教育が目指すべき方向性を見出すことに寄与した内容といえるものでした。

さらに、今年の研究発表の特色は、教育現場の関心や要望を反映し、実践発表を主眼とした研究発表を多く取り上げたことです。そのため、山口県内の小中学校や山口大学附属学校の先生方からも多くの発表をいただきました。また、課題研究は「教育コンテンツ・評価」「教育方法・技術」「新教育課程」「教師教育と生涯教育」の4テーマとしましたが、一般発表のセッションの分け方を、従来の分野ごとではなく、校種(対象者層)ごとにしました。一般研究のセッションは「初等教育の実践研究」「中等教育の実践研究」「高等教育の実践研究」「教員研修の実践研究」「生涯学習の実践研究」にしましたので、発表を聞く側の立場からは「会場を選びやすかった」との評価の声があがりました。

新学習指導要領の完全実施を控え、教育内容や方法・技術、評価のあり方も大きく変わろうとしている現在、教師の授業における役割も「教える」「与える」授業から、「支援する」「コーディネートする」へと変わってきています。学習内容の精選をめざした授業時数の削減のなかで新設された「総合的な学習の時間」の効果的な実施については、多くの現場の先生が内容、方法、評価のあり方について困惑しているのが実状であるといえましょう。今回のシンポジウムは、これらの背景をふまえ、情報教育や総合的な学習の時間における教育情報(コンテンツ)や方法・技術に加え、とくに教育評価のあり方、これからの教師に求められる資質や力量、現職教員を対象とした効果的な教員研修のあり方について考えることにし、テーマを「これからの教育評価と教師の役割」として行われました。

最終プログラムとして行われたシンポジウムは、熊谷山口大学教育学部長のごあいさつに引き続き、永野和男教授(聖心女子大学)の「新カリキュラムの実践と評価のための教育情報」と題した基調講演ではじまりました。パネリストは、教師教育の立場から近藤勲先生(岡山大学・国立大学教育実践関連センター協議会会長)、教育内容・評価の観点から宮田仁先生(滋賀大学)、情報教育・教員研修の観点から川野智先生(京都府総合教育センター)、医学部における電子シラバスと教育評価システムの観点から川崎勝先生(山口大学 医学部)、教育方法の観点から沖裕貴先生(山口大学)が参加され、さらに、宮崎県の教育実践事例から遠隔学習

について宮崎大学の新地辰朗先生が、山口大学と宮崎大学をSCS（衛星通信を利用した遠隔装置）を結んで参加いただきました。時間的制約がありましたが、豪華メンバーによる盛りだくさんの内容で、有意義な議論がなされました。

また、1日目夕刻、セントコア山口に会場を移して開かれた懇親会には、70名近くの方がご出席され、丸本卓哉山口大学副学長をはじめ多くの方にご祝辞をいただきました。和やかな雰囲気の中、会員同士が旧交を温め、自身の研究テーマや発表内容などを話題に活発な話し合いをしているテーブルには、福田大会委員長手書きの絵が描かれた席札が置かれ、会場全体により一層心あたたまる空気が漂っていました。

タイから出席されたスヤニーさん（チュラロンコン大学）をはじめ、参加者の皆さんは、研究発表やディスカッションを通じて満足のいく2日間を過ごされ、今後の情報教育の新しい方向性を見出すことに寄与できたのではないかと考えております。第18回年会は、盛況のうちに終わることができ、一転晴れわたった空のような心持ちで皆さん帰路につかれたようでした。

年会成功のため半年以上にわたる準備から当日運営まで、お手数をおかけいたしました山口大学教育学部附属教育実践総合センターを中心とした年会実行委員会の方々、並びに会場の提供をいただいた山口大学の皆さまに、心からお礼申し上げます。

第18回年会論文集をご希望の方は年会実行委員会（Tel&Fax083-933-5310）までお問合せください。なお、シンポジウム、基調講演の概要は後日「教育情報研究」に掲載する予定です。

2003年度第19回年会は、大阪学院大学で8月に開催する予定です。日程等につきましては、改めてお知らせいたします。

..... 2002年度 日本教育情報学会学会賞結果

奨励賞（2件）

前年度の学会研究発表大会において発表された優れた研究の中から選考する。

山田 信雄（岐阜県各務原市立那加第三小学校）

「野草情報収集のためのHP構築と情報収集の効率化」

福田 桂子（埼玉県春日部市立粕壁小学校）

「小学校からの情報倫理教育の位置付け」

論文賞 本年度は該当なし

学会誌『教育情報研究』に掲載された論文のうちで特に優れたものに対して授与する。この賞は必ずしも毎年授与されるとは限らず、該当論文が得られた場合にのみ、その年度または次年度の総会で表彰する。

特別賞 本年度は該当なし

奨励賞および論文賞は若手研究者を対象とするものであるが、そうした制限を設けず、学会員による非常に優れた研究成果の発表があった場合、これに対し学会として特に敬意を表す必要があると選考委員会が判断したとき、それに基づいて会長が学会運営委員会と協議し、原則として総会において特別に表彰する。

.....**役員・評議員・顧問名簿**.....

総会において報告された評議員の追加推薦者は、その後、理事会において承認されました。
これらの方を含め、現在の役員、評議員、顧問の名簿を掲載します。

(任期はいずれも2003年11月14日まで)

役員(五十音順/敬称略)

会長	木田 宏	(日本学術振興会顧問)
副会長	上野 一郎	(産業能率大学理事長・産能大学学長)
(3名)	大森 厚	(中央工学校理事長)
	辰野 千壽	(応用教育研究所所長)
理事	芦葉 浪久	(東北師範大学客員教授)
(19名)	有園 格	(静岡文化芸術大学教授)
	遠藤 昭雄	(国立教育政策研究所所長)
	大隅 紀和	(京都教育大学教授)
	大野 曜	(国立女性教育会館理事長)
	奥田 真丈	(芦屋大学学長)
	鎌谷 秀男	(修成学園理事長)
	古賀 節子	(青山学院大学名誉教授)
	後藤 忠彦	(岐阜女子大学文化情報研究センター長・教授)
	坂元 昂	(メディア教育開発センター所長)
	佐々木 幹夫	(産能大学出版部長)
	高 為重	(国立オリンピック記念青少年総合センター理事長)
	長尾 真	(京都大学総長)
	中山 和彦	(21世紀教育研究所)
	深谷 哲	(大阪大学名誉教授)
	藤田 恒夫	(福山平成大学教授)
	堀口 秀嗣	(国立教育政策研究所教育研究情報センター総括研究官)
	横山 茂	(専修学校教育振興会専務理事)
	若山 皖一郎	(十文字学園女子大学教授)
監事	秋山 昭八	(秋山昭八法律事務所所長)
(2名)	鈴木 忠	(北杜学園理事長, 公認会計士)

注： の方は機関の長として就任。

評議員(35名/五十音順/敬称略) 【 : 2002年10月1日就任】

安達	一寿	(十文字学園女子大学社会情報学部助教授)
新井	郁男	(愛知学院大学教授)
井口	磯夫	(十文字学園女子大学社会情報学部教授)
石原	辰雄	(産能大学経営情報学部教授)
井上	透	(国立磐梯青年の家)
大西	莊一	(岡山理科大学助教授)
岡山	保美	(日本情報学園理事長)
加藤	直樹	(岐阜大学カリキュラム開発研究センター助教授)

北島 義俊（大日本印刷(株)代表取締役社長）
 木下 昭一（聖徳大学教授）
 久保田 了司（高度映像情報センター理事）
桜林 正巳（財団法人松下視聴覚教育研究財団常務理事・事務局長）
 清水 厚実（図書教材研究センター所長）
 白川 雄三（大阪学院大学経済学部長・教授）
 菅井 勝雄（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
 園屋 高志（鹿児島大学教育学部教授）
 丁子 惇（東京書籍(株)代表取締役会長）
 成田 十次郎（高知女子大学学長）
 成瀬 喜則（富山商船高等専門学校助教授）
 南部 昌敏（上越教育大学学校教育総合研究センター教授）
 二村 健（明星大学人文学部教授）
 橋本 ヒロ子（十文字学園女子大学社会情報学部教授）
 林 徳治（山口大学教育学部教育実践総合センター教授）
 福田 益和（大阪工業技術専門学校理事長）
 舟本 奨（教育戦略情報研究所）
 古田 善伯（岐阜大学教育学部教授）
 朴 聖雨（プール学院大学大学院研究科長・教授）
 堀田 龍也（静岡大学情報学部助教授）
本郷 健（川村学園女子大学教授）
 松川 禮子（岐阜大学教育学部教授）
 宮地 功（岡山理科大学総合情報学部教授）
宮田 仁（滋賀大学助教授）
 三輪 眞木子（メディア教育開発センター教授）
 村瀬 康一郎（岐阜大学カリキュラム開発研究センター助教授）
 森高 桂子（長崎大学附属図書館情報サービス課長）

顧問（12名 / 五十音順 / 敬称略）

石川 忠雄（慶応義塾大学名誉教授）
 上寺 久雄（兵庫教育大学名誉教授）
 大沼 淳（文化学園理事長）
 小高 民雄（東京書籍(株)相談役）
 熊谷 信昭（大阪大学名誉教授）
 坂井 利之（京都大学名誉教授・龍谷大学名誉教授）
 清水 司（東京家政大学理事長・学長）
 鈴木 勲（日本弘道会会長）
 高橋 時春（日本教育新聞社会長）
 林 大（国立国語研究所名誉所員）
 村井 資長（早稲田大学理工学総合研究センター名誉顧問）
 森 亘（日本医学会会長）